

# 特設教科「北方科」について

## 1 ねらい

### ふるさと北方について学ぶことを通して、教科の学びを深める北方科

- ・身近な北方町に関わる教材を9年間系統的に学習することを通して、ふるさと北方を愛する心を育てるとともに、各教科の学習内容に対して、実感をもって理解を深める。

## 2 構成・内容

- ・教科、領域の学習内容との関連を図る。
- ・各学年、総合的な学習の時間から年間15時間を充てる。(※1・2年は生活科15時間)
- ・上巻(1～4年用)、下巻(5～9年用)の2冊作成する。
- ・上巻、下巻の巻末に資料編として、現在発行している社会科副読本「マイタウン北方」に掲載しているテーマの内、社会科の地域学習に必要なテーマを入れ込む。
- ・「開かれた教育課程」の観点から、地域住民や行政組織など地域コミュニティ全体で指導にあたり、人的、物的な体制を確立する。  
～北方科が子どもの学びをつなぎ、地域と学校をつなぎ、教職員同士をつなぐ～

## 3 審議会・作業部会

- ・北方科審議会での意見を参考にしながら、現在、作業部会で教科書、指導案を作成中。

## 4 令和3年の日程(案)

2月 2日(火)	○審議会(趣旨説明・作業日程説明・原案説明) ※実施済
3月 18日(木)	◇作業部会(各部会員が作成した1テーマをもとに構成・内容等確認)
4月 下旬	○審議会(今年度の作業日程等説明、原案をもとに内容構成の確認)
5月 月上旬	◇作業部会…作業の日程説明、分担説明 1人2テーマ作成(16名) テーマの関連教科の専門の先生を考慮して依頼する。
7月 下旬	◇作業部会(1案)…各自が作成した2テーマをもとに教科ごとで見 合い、内容の検討、修正点を明らかにする。
8月 下旬	◇作業部会(2案)…修正案の提出。再検討。
9月 中旬	※修正案の提出(3案)
9月 下旬	○審議会(修正案の提示) ※審議会後、町教委から作業部会員に審議会での指摘を伝達。
10月上旬	◇作業部会(最終版の確認)
10月末	初稿完成→印刷業者へ
11月～	校正3回(作業部会員と町教委でやりとりをする) 印刷
令和4年4月	配付

## 「北方科」審議会 会議要旨

- ◇ 日時 令和3年2月2日(火) 15:00～16:30
- ◇ 場所 北方町役場 2階 大会議室
- ◇ 内容 「北方科」の趣旨説明  
「北方科」についての意見交流

### ◇ 意見

#### 【北方科のコンセプト・全体像】

- ・北方のふるさと教育の実現にむけて具体的に動き出していることに拍手を送りたい。  
完璧なものを作成するというより、作成したものを実践しながらよりよいもの、確かなものにしていくのがよい。
- ・ぶれてはいけないのは、9年間学んだ子にどんな力をつけるのかということであり、まさに人間教育である。
- ・北方科審議会と作業部会との連携を密にすることが大切である。
- ・テキストの内容の細かいチェックが必要である。
- ・最新のデータで作成することが大切である。
- ・取り上げる内容について、北部(北学園)と南部(南学園)地域のバランスをとってほしい。
- ・人々の希望、願い、祈りをテキストや学習活動案に書いてほしい。(例:交通機関を守ろうとした人々、戦時中の人々)
- ・北方に赴任した先生が、児童生徒にねらいに迫らせることができるものにしてほしい。
- ・テーマを精選していく時の視点を明確にもつことが大切である。
- ・平和、環境、福祉、人権の問題(※喫緊の課題)をもち、ぶれないことが大切である。
- ・ふるさとを愛する心を育むことを大切にしてほしい。
- ・過去のどこに着目させるか、受け継いでいくもの(文化、芸能)を大切に考えてほしい。
- ・身のまわりから課題を見つけて追究する、課題解決型のテーマがあってもよい
- ・北方科で学んだことを子から親に教えてあげるくらいになるとよい。

⇒今まで学習したこととつなげて、学びを深める学習内容である。

⇒教科の学習を深め、ふるさとにほこりをもてるテーマにしぼりこんでいる。

⇒過去から学び、現在を見つめ、未来はどうあるべきかという視点をもって内容を構成している。

⇒北方科は地域の方の協力がないと成り立たない。学習ボランティア、ゲストティーチャーとしての入り方は、学校からこのねらいで話してほしいという依頼があるので、資料等は作成いただきたい。そのテーマに関わる方が話すことに重みがある。